

第 43 回・世界プライバシー会議（GPA）結果報告

令和 3 年 11 月 10 日
個人情報保護委員会

令和 3 年 10 月 18 日（月）から 21 日（木）に、メキシコ INAI（National Institute for Transparency, Access to Information and Protection of Personal Data。メキシコのプライバシー・データ保護機関）の主催によりオンライン形式で開催された第 43 回世界プライバシー会議（GPA）に、当委員会より丹野委員長、浅井委員、麻田専門委員、新保専門委員等が参加した。

1. 本会議には、GPA 参加国のプライバシー・データ保護機関の長等が参加し、20・21 日のクローズドセッションには、90 以上のメンバー及びオブザーバー機関が出席した。
 - (1) 18・19 日のオープンセッション（民間等も参加可能）では「プライバシーとデータ保護：人間を中心としたアプローチ」というテーマの下、様々な基調講演・パネルディスカッションが実施された。
 - (2) 20・21 日のクローズドセッション（政府関係者のみ）では、GPA の 1 年間の活動成果・今後の動きに関する報告が行われ、今後 2 年間の戦略計画についての議論、新型コロナウイルス感染症への対応や GPA のキャパシティビルディングを題材とした議論が行われた。また、昨今のプライバシー・データ保護に関する主要なトピックを反映した 5 つの決議案（「GPA の戦略的方向性（2021-23 年）」、「会議の将来」、「公共の利益のためのデータ共有」、「子どものデジタル権利」、「ガバメントアクセス」に係る決議案）が採択された。
2. 本会議において、当委員会から発言等を行った主な箇所は以下のとおり。

(1) 信頼あるデータ流通に関する基調講演

オープンセッションの「Data Flows with Trust」と題した基調講演において、丹野委員長が、我が国の推し進めている DFFT の概要や当委員会の DFFT 推進に係る取組及び今後の課題等について、講演を行った（事前収録のビデオメッセージによるもの）。

(2) 執行協力に関するパネルディスカッション

クローズドセッションの執行協力をテーマとしたパネルディスカッションにおいて、浅井委員がパネリストとして登壇し、当委員会における他国との執行協力事例について紹介を行った。また、国際的な執行協力の重要性の高まりについて強調し、当委員会による GPA 国際執行協力作業部会へ参加の意向を表明した。

(3) 新型コロナウイルス対策に関する議論

クローズドセッションにおいて、新型コロナウイルス対策に関するパネルディ

スカッションが実施され、麻田専門委員より、GPA COVID-19 作業部会によって作成されたベストプラクティス集への支持を表明するとともに、我が国におけるワクチン接種証明書に関する当委員会の関与を紹介した。

(4) 「GPA の戦略的方向性 (2021-23)」に係る決議案

GPA の活動方針を定める当該決議案につき、当委員会事務局から、我が国の目指す DFFT と GPA の活動方針が調和する点について言及し、同内容を支持する旨の発言を行った。

(5) 「ガバメントアクセス」に係る決議案

当該決議案は当委員会も提案者となっており、当委員会事務局から、OECD での取組を含むガバメントアクセスに対する一連の対応についてコメントした。

※今回決議として採択された内容は、即時発効もしくはワーキング・グループ等での議論継続がなされる予定となっている。

3. 次回の年次会議（第 44 回）はトルコ、次々回（第 45 回）はバミューダがホストとなる予定である。

（以上）